

課題 「軽井沢」

「イメージン」

人物

伊藤ミナ (21)

岩崎良太 (11)

○ 渋谷のスクランブル交差点

伊藤ミナ（ミナ）が横断歩道の信号待ち中。ミナの恰好は紺色のスーツである。

歩行者用の信号機が青になり、人々が一斉に歩き出しミナも歩き出す。ミナ、交差点の真ん中で急に立ち止まる。

後ろを歩いていた若い男がミナにぶつかりそうになり、明らかに嫌な顔をしてミナを追い越していく。

ミナ「あーあーうっざー」

ミナ、そのまま上をむく。

ビルのエキシビジョンに軽井沢の

PR 動画が映る。

ミナ、それを見つめる。

○ 軽井沢・駅前

青空だけが広がっている。

ミナ、駅前のロータリーで独り、
上をむいている。
ミナの恰好はカジュアルな服装。
ミナ、きよろきよろと駅前をみる
。

自転車のレンタルサイクリングの店
を見つけて

ミナ「よし！」

ミナ、歩き出す。

○ 軽井沢の歩道

緑の木々が茂っている坂道。

ミナが自転車で坂を下りながら、
走っていく。

ミナ「さいっこう！」

学生服の岩崎良太（ー）が歩いて
おり、その横をミナが自転車で走
り抜ける。

走り抜けていったミナを目で追う
良太。

良太「・・・お気楽」

その先には、まっすぐで長い下り坂が見える。

○（回想）学校・教室内

教室には良太しかない。

良太、模試の結果用紙をみている。模試の結果は、希望退学はバラック。

良太「：くっそ」

良太、結果用紙をきれいに畳んで学生カバンに入れる。

○同・道

長い下り坂を見ながら、ため息をつく良太。

○喫茶「離山房」の前の道

ミナ、自転車から降りて歩道にいる。

自転車のチェーンは外れており、
ミナがなんとか直そうとしている。
その道のちょうど反対側の歩道
に良太が歩いてくる。
良太はちらっと、ミナを見るが
立ち止まらずそのまま歩いていく。

ミナ「：ちよ。そこの少年」

良太、立ち止まらない。

ミナ「聞こえてんの？そこ歩いている学

生！」

良太、後ろをふりむく

ミナ「そう君！ちよつときてよ！」

× × ×

良太、外れたチェーンを元に戻し
ている。

良太「これで、何とか」

ミナ「さすが少年。ありがと」

良太「いいですけど：これ僕が通りかか
らなかつたら」

ミナ、喫茶店『離山房』を見て、

ミナ「あそこの店にいこつかな、とは
思つたけど」

良太「じゃ、なんで」

ミナ「なんでって：」

ミナ、考え込むような顔で良太を
みる。

良太「え？」

ミナ「：さつきすれ違ったから：かな」

良太「僕、行きますね」

良太、歩き出そうとする。

ミナ「え？ちよつと待ってよ。少年」

良太「あの僕、少年じゃなくて！」

ミナ「お礼させて！」

○同・店内

向かい合わせで、リナと良太がテ
ーブルに座っている。

リナの前にはパンケーキとブルーベ
リージュース。

良太の前にはコーヒーとケーキ。

ミナ、良太がコーヒーを飲む姿をみて、

ミナ「よくそんな苦いの飲めるねえ、若いのに」

良太「普通、飲めますよ」

ミナ「そっか。そうだよねえ」

良太「あの、そっちも若いですよね」

ミナ「お、聞いちゃう？女子に年齢を、少年」

良太「だから、良太っていう名前が」

ミア「だって、良太くん、私の事ミナさんとか呼んでくれなさそうだし」

良太「だって：」

ミナ「ほらやっぱり」

良太「さつき会ったばかりだし：」

ミナ「まあ、そうなるか」

良太「：」

ミナ「：悪かったと思ってさ」

良太「え？」

ミナ「私が先に行っちゃったから」

良太「え？」

ミナ「チャリンコなんていう、文明の利器で追い越しちゃったから」

良太「何言ってる？」

ミナ「だって悩んでんでしょ、良太君。わかるよ、私も」

良太「……」

ミナ「私、絶賛、就活中。行き詰まってるの」

良太「……わかるって何が？」

ミナ「良太くんも進路とか悩んでいるんだろーなと」

良太「だから、何がわかるんですか？」

ミナ「私も同じで悩んだなあって」

良太、無言でミナを睨む。

ミナ「……あ違ってた？ごめん」

良太「そういうの、ウザいっていうんです」

ミナ「……そうか」

良太「……」

ミナ「そうだよねえ：」

ミナ、パンケーキを食べる。

良太もケーキを食べる。

ケーキを食べ終わってもずっと無

言の良太。

ミナ、窓の外の木をみる。木の幹に

プレートが引つかかっているのが見

える。

ミナ「良太くん」

良太「：なんですか？」

ミナ「あそこの木さ、何の印がついてん

の？」

良太「ジョンレノンの息子の身長です」

ミナ「へーよく知ってるね」

良太「この辺の人なら、誰でも知ってま

す」

ミナ「そうか誰でも知っているのか：」

良太「：」

ミナ「でも私、知らなかったからさ、あ

りがと」

良太「いえ：」

× × ×

テーブルの上は空の皿と空のカップ
とグラスがある。

ミナ「さてと、そろそろ出ますか」

良太「あの、ミナさん」

ミナ「何？」

良太「うざいは言いすぎました」

ミナ「いいよ、そんなの」

良太「でも：」

ミナ「なんか、ちよつと嬉しかったし」

良太「え？」

ミナ「言ってるばっかじゃわかんないこ
ともあるなあって」

ミナ、良太に笑いかける。

そのミナの実顔を見つめてしまう

良太。

○ 曲がり角・道

ミナと良太が歩いている。

ミナは自転車を押している。

良太「僕、こっち、なんで」

ミナ「そっか」

良太「あの、気をつけて：」

ミナ「私、今度コーヒー飲んでみるよ」

良太「え？」

ミナ「私も普通にならなきゃかなって」

良太「：」

ミナ「じゃあ、またね」

ミナ、自転車に乗り、走りだす。

良太、自転車で走り去る、ミナを

見つめる。

○良太の部屋

良太、スマホを見ている。

スマホの検索画面は、『ジョンレ

ノン 名曲』の文字。

検索でイメージの曲をみつける。

○新幹線の中

ミナが外の風景を眺めている。
耳にはイアホンがついている。
ミナ、少し微笑んでいるような表
情。

ジョンレノンのイメージの音楽が流
れる。

了